様式第１号

令和５年６月２８日

文部科学大臣　殿

学校法人　中西学園

理事長　中西　克彦

大学等における修学の支援に関する法律第７条第１項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	名古屋外国語大学
大学等の種類 （いずれかに○を付すこと）	(大学) 短期大学・高等専門学校・専門学校）
大学等の所在地	愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57 番地
学長又は校長の氏名	学長　亀山 郁夫
設置者の名称	学校法人　中西学園
設置者の主たる事務所の所在地	愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57 番地
設置者の代表者の氏名	理事長　中西 克彦
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.nufs.ac.jp

※ 以下のいずれかの□にレ点（☑）を付けて下さい。

□　確認申請
　大学等における修学の支援に関する法律施行規則第５条第１項に基づき確認申請書を提出します。

☑　　更新確認申請書の提出
　大学等における修学の支援に関する法律施行規則第５条第３項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点（☑）を付けて下さい。

☑　この申請書（添付書類を含む。）の記載内容は、事実に相違ありません。

☑　確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律（以下「大学等修学支援法」という。）に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

☑　大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☑　この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☑　申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第７条第２項第３号及び第４号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第１号	事務局　後藤隆文	0561-74-1111	gotou@nufs.ac.jp
第２号の１	教務部　青木康祝	0561-74-1111	yaoki@nufs.ac.jp
第２号の２	企画調査課　近藤晋一	0561-75-1713	s-kon@nakanishi.ac.jp
第２号の３	教務部　青木康祝	0561-74-1111	yaoki@nufs.ac.jp
第２号の４	事務局　後藤隆文	0561-74-1111	gotou@nufs.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点（☑）を付けた上で、これらの書類を添付してください。（設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。）

「⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

☑　実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》

☑　実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「⑵-①学外者である理事の複数配置」関係

☑　《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「⑵-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

□　《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

☑　客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

☑　実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

☑　《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料

☑　確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	名古屋外国語大学
設置者名	学校法人　中西学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
外国語学部	英米語学科	夜・通信	16			16	13	
	フランス語学科	夜・通信				16	13	
	中国語学科	夜・通信				16	13	
現代国際学部	グローバルビジネス学科	夜・通信				16	13	
	現代英語学科	夜・通信				16	13	
	国際教養学科	夜・通信				16	13	
世界共生学部	世界共生学科	夜・通信				16	13	
世界教養学部	世界教養学科	夜・通信				16	13	
	国際日本学科	夜・通信				16	13	

（備考）
現代国際学部グローバルビジネス学科，現代英語学科及び国際教養学科は，2022 年度に教育課程を変更している。

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページ　https://www.nufs.ac.jp/outline/disclosure/study-support/

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	名古屋外国語大学
設置者名	学校法人中西学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

学園ホームページ：https://www.nakanishi.ac.jp/outline/officer.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	民間企業 経理部長（前） 民間企業 副社長（前）	2020.4.1 ～ 2024.3.31	財務担当 財務管理をはじめとする企業経営の中枢での経験が豊富なため、本学園の安定的な運営への助言・指導を求める。
非常勤	私立大学教授（前）	2022.4.1 ～ 2026.3.31	管理運営担当 公的機関、学校法人における統括部門経験が豊富で、特に教育行政、学校経営の専門家として、また教育研究分野の現職として活躍しており、本学園の経営面をはじめとする管理運営への助言・指導を求める。
非常勤	公的医療機関の長（現）	2020.4.1 ～ 2024.3.31	教育・研究担当 本学園との連携を強化している公的医療機関の長という立場から、大学の教育の高度化、研究の向上に向けた大所高所からの助言・指導を求める。
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	名古屋外国語大学
設置者名	学校法人　中西学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 学生が授業選択の際や授業の進度を確認する際に参照するため，授業担当教員に開講前年度の１月下旬を期限としてシラバスの作成，ポータルシステムへの登録を求めている。教員には作成要領を規定した『シラバス（講義要項）の作成について』を配付し，記載の必要な事項として，①授業概要（主要テーマ），学習目標並びに準備学習の内容，②目標達成のための授業方法，③授業計画，④成績評価基準，⑤使用教科書（参考書）を示している。その後，各学科において，教務委員を中心としてシラバスの内容を点検し，不備や課題を修正したうえで，３月下旬にＷｅｂ公開している。（全学部共通）	
授業計画書の公表方法	http://portal.nufs.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき，順次性のある体系的な教育課程の下，多様な授業方法を採用したり，体験的な学修活動を充実させるなど教育方法を工夫し，単位の実質化が図られた授業を展開している。これらの授業の受講により修得された成果を適切に評価するため，明確化された到達目標と成績評価基準に従い，厳正で公平な成績評価の実施に努めている。これに基づき，シラバスにおいて成績評価基準を掲載し，あらかじめ周知している。（全学部共通）	

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） 学修成果を組織的に評価する制度としてＧＰＡを導入し，学修到達度のレベルを加重平均し算出している。 ＧＰＡは，授業科目ごとに成績評価 A+/A/B/C/D･E･Fに対し，ＧＰ４．０/３．０/２．０/１．０/０．０を付与し，単位あたりの平均値を求めるものとし，次の算出式を用いている。 〔４．０×[A＋]修得単位数＋３．０×[A]修得単位数 ＋ ２．０×[B]修得単位数 ＋ １．０×[C]修得単位数〕/ [A+･A･B･C･D･E･F]総履修単位数 これらについては，下記ＨＰに掲載するほか，毎年度配付する履修要項にも掲載し周知している。学生は各自のＧＰＡ値をポータルシステムにより，学期ごと及び通算の２種類を確認することができる。（全学部共通）	
客観的な指標の算出方法の公表方法	大学ホームページ https://www.nufs.ac.jp/outline/disclosure/study-support/
４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 大学全体及び各学部における卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は学長室会議において策定し，大学評議会及び各学部の教授会の議を経て，決定している。この方針は，全学生に毎年度配付する履修要項に掲載するほか，大学公式ＨＰにも公表している。 この方針に基づき，４年次後期の成績が判明した段階で，教務課により在籍年数及び修得単位数を取りまとめ，各学科に送付される。学科で卒業要件を満たすことの確認がされたのち，３月教授会において承認され，学長が卒業を認定する。 大学全体及び各学部の方針は次のとおりである。 〔大学全体〕 各学部，学科に編成された教育課程において学修し，所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得し，幅広く豊かな教養を礎に，高い専門性と高度な外国語運用能力を身につけ，豊かな共感能力と国際感覚をもった学生に，学士の学位を授与する。	

〔外国語学部〕
幅広く豊かな教養を礎に，世界の主地域の言語・文化・社会についての高い専門性と高度な外国語運用能力を身につけ，多言語・多文化への豊かな共感能力と鋭利な国際感覚をもった国際的教養人の育成を目的として，その実現のために各学科に編成された教育課程において学修し，所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者に，専攻分野の名称を付記した学士の学位を授与する。

英米語学科 学士（英語）

フランス語学科 学士（フランス語）

中国語学科 学士（中国語）

学修成果

■豊かな教養

外国語学部において所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者は，国際的教養人としてふさわしい汎用的能力（情報処理力，批判的思考力・表現力・判断力），外国語運用能力（英語及び英語以外の複言語のコミュニケーション能力），世界教養（世界の言語・文化・政治・経済・自然などに関する教養）を身につけている。

■高い専門性

専攻言語に関わる言語・文化・社会について高度な知識を身につけている。

■高度な外国語運用能力

国際的教養人に不可欠な専攻言語による高度なコミュニケーション能力を身につけている。

■豊かな共感能力・国際感覚

多言語・多文化の社会で，外国語を適切に使用する知識・能力を有し，異なる文化や価値観に対して共感し，グローバルな視野で意思伝達ができる国際感覚を身につけている。

〔現代国際学部〕
幅広く豊かな教養を礎に，キャリアに関わる高い専門性，また高度な英語運用能力を身につけ，現代社会に関わる鋭利な問題意識，豊かな共感能力と国際感覚をもった国際的職業人の育成を目的として，その実現のために各学科に編成された教育課程において学修し，所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者に，専攻分野の名称を付記した学士の学位を授与する。

グローバルビジネス学科 学士（国際経営）

現代英語学科 学士（国際学）

国際教養学科 学士（国際学）

学修成果

■豊かな教養

現代国際学部において所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者は，国際的職業人としてふさわしい汎用的能力（情報処理力，批判的思考力・表現力・判断力），外国語運用能力（英語及び英語以外の複言語のコミュニケーション能力），世界教養（世界の言語・文化・政治・経済・自然などに関する教養）を身につけている。

■高い専門性

専攻分野で，各種キャリアに係る高度な知識とスキルを身につけている。

■高度な英語運用能力
専攻分野で，各種キャリアに係る高度な英語運用能力を身につけている。
■豊かな共感能力・国際感覚
英語を各種キャリアで適切に使用する知識・能力とキャリアスキルを統合し，国際社会で活躍できる共感能力・国際感覚を身につけている。

〔世界共生学部〕
幅広く豊かな教養を礎に，高い専門性，高度な英語運用能力を身につけ，基本的な倫理観，健全な競争心，豊かな共感能力を備え，多文化共生時代に国内外で対処を迫られる課題に対して高い見識と多角的な視野から対応できる人材の育成を目的として，その実現のために各学科に編成された教育課程において学修し，所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者に，専攻分野の名称を付記した学士の学位を授与する。
世界共生学科 学士（世界共生）

学修成果
■豊かな教養
世界共生学部において所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者は，世界規模の課題解決に向け他者と協調して行動できる人材にふさわしいコミュニケーション能力，情報活用能力，そして批判的思考力・表現力・判断力等からなる豊かな教養を身につけている。
■高い専門性
複数のリージョン（地域生活圏）の社会・文化についての学びを通じ，日本及び世界の諸現象を総合的かつリアルに理解し，多様な地域・文化の人々との平和的共生を実現し，かつビジネス等の面においては対等に競いながら，グローバルに活躍するのに充分な知識・技能を備えている。
■高度な英語運用能力
「聞く・話す・読む・書く」の４スキルに加え，国際問題を討論する高度な外国語コミュニケーション能力を身につけている。
■基本的な倫理観・健全な競争心・充分な共感能力・国際感覚
協調精神（cooperation）や社会貢献の意識（contribution）を強くもった多文化共生社会の担い手となるに充分な共感能力・国際感覚を身につけている。

<table>
<tr><td colspan="2">〔世界教養学部〕
幅広く豊かな教養を礎に，日本及び世界の諸地域の言語・文化・社会に関する高い専門性と高度な言語運用能力を身につけ，日本が抱える社会課題や世界規模の課題に対応できる豊かな共感能力と鋭利な国際感覚に裏打ちされたグローバル教養人の育成を目的とし，その実現のために各学科に編成された教育課程において学修し，所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者に対し，専攻分野の名称を付記した学士の学位を授与する。
世界教養学科 学士（世界教養）
国際日本学科 学士（日本語）
学修成果
■豊かな教養
世界教養学部において所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者は，日本及び世界諸地域の課題に対応できる汎用的能力（情報処理力，批判的思考力・表現力・判断力），言語運用能力（英語と日本語及び英語以外の複言語のコミュニケーション能力），世界教養（世界の言語・文化・政治・経済・自然などに関する教養）を身につけている。
■高い専門性
世界と日本の言語・文化・歴史・社会について高度な専門知識を身につけている。
■高度な言語運用能力
グローバル教養人に不可欠な外国語と日本語による高度なコミュニケーション能力を身につけている。
■豊かな共感能力・国際感覚
グローバル社会の中で，世界と日本を双方向的に捉え，日本語・外国語を適切に使用する知識・能力を有し，個々の状況に対する批判的な思考力と同時に，異なる文化や価値観に対する共感能力を備え，グローバル＋ローカルな視野で意思伝達ができる国際感覚を身につけている。</td></tr>
<tr><td>卒業の認定に関する方針の公表方法</td><td>大学ホームページ
外国語学部
https://www.nufs.ac.jp/faculties/foreign/fs-policy/
現代国際学部
https://www.nufs.ac.jp/faculties/international/ci-policy/
世界共生学部
https://www.nufs.ac.jp/faculties/collabo/policy/
世界教養学部
https://www.nufs.ac.jp/faculties/liberal-arts/la-policy/</td></tr>
</table>

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	名古屋外国語大学
設置者名	学校法人　中西学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nufs.ac.jp/outline/disclosure/finance/
収支計算書又は損益計算書	https://www.nufs.ac.jp/outline/disclosure/finance/
財産目録	https://www.nufs.ac.jp/outline/disclosure/finance/
事業報告書	https://www.nufs.ac.jp/outline/disclosure/finance/
監事による監査報告（書）	https://www.nufs.ac.jp/outline/disclosure/finance/

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　　対象年度：　　）	
公表方法：	
中長期計画（名称：　　対象年度：　　）	
公表方法：	

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.nufs.ac.jp/outline/disclosure/assessment/assessment-2016/

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：https://www.nufs.ac.jp/outline/disclosure/assessment/assessment-2016/

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　外国語学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.nufs.ac.jp/faculties/foreign）
（概要） 多言語・多文化共生の時代に突入した昨今のグローバル化社会において，世界共通語としての「英語」及び「英語以外の言語」，さらに多文化を受け入れる資質が重要視されている社会背景のなか，世界の言語と文化をアカデミックなアプローチで探究する。すなわち，専攻する言語圏の言語・文学・文化・社会などを学術的に学び，異なる文化的背景を持つ人々の考え方や行動形式について深く掘り下げる。また，専攻言語だけでなく，複数の言語を学ぶことで複眼的な視野を獲得し，言語運用能力と対人能力に優れたグローバル人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.nufs.ac.jp/faculties/foreign/fs-policy/#a4064696）
（概要） 幅広く豊かな教養を礎に，世界の主地域の言語・文化・社会についての高い専門性と高度な外国語運用能力を身につけ，多言語・多文化への豊かな共感能力と鋭利な国際感覚をもった国際的教養人の育成を目的として，その実現のために各学科に編成された教育課程において学修し，所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者に，専攻分野の名称を付記した学士の学位を授与する。 　英米語学科　学士（英語） 　フランス語学科　学士（フランス語） 　中国語学科　学士（中国語） 学修成果 ■豊かな教養 所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者は，国際的教養人としてふさわしい汎用的能力（情報処理力，批判的思考力・表現力・判断力），外国語運用能力（英語及び英語以外の複言語のコミュニケーション能力），世界教養（世界の言語・文化・政治・経済・自然などに関する教養）を身につけている。 ■高い専門性 専攻言語に関わる言語・文化・社会について高度な知識を身につけている。 ■高度な外国語運用能力 国際的教養人に不可欠な専攻言語による高度なコミュニケーション能力を身につけている。 ■豊かな共感能力・国際感覚 多言語・多文化の社会で，外国語を適切に使用する知識・能力を有し，異なる文化や価値観に対して共感し，グローバルな視野で意思伝達ができる国際感覚を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.nufs.ac.jp/faculties/foreign/fs-policy/#11ce6c7f）
（概要） １．学位授与方針，人材養成の目的と整合性のとれた教育課程の編成を行う。 　豊かな教養，高い専門性，専攻言語についての高度な運用能力とともに，多言語・多文化についての共感能力と国際感覚を涵養するため，教育課程に「全学共通基幹科目」，

「専修科目」，「自由選択科目」，「全学開放科目」を設置する。
　豊かな教養については，「全学共通基幹科目」の「アカデミックスキルズプログラム」と「ＩＣＴプログラム」で国際的教養人にふさわしい汎用的能力を育成し，「英語基幹プログラム」，「複言語プログラム」で英語及び英語以外の複言語のコミュニケーション能力を育成するとともに，「世界教養プログラム」で世界の言語・文化・政治・経済・自然などに関する教養を修得させる。高い専門性については，「専修科目」の「専門科目群」と「専門ゼミナール」で主に育成し，高度な外国語運用能力は「専攻言語プログラム」を中心にして育成する。さらに，学生の学力及び学修目標の多様化に対応するために「自由選択科目」を編成するとともに，「全学開放科目」を設置し，他学科，他学部の開講科目も履修可能にする。これらの科目の履修と国際交流を通して，世界を舞台に活躍できる豊かな個性と人間味に溢れ，共感能力と国際感覚を身につけた人材を育てることを目指す。

２．学位授与方針に則して順次性のある体系的な教育課程を編成する。
　人材養成の目的と学修成果の達成に向けて，初年次から卒業年次に至るまで，「全学共通基幹科目」，「専修科目」，「自由選択科目」，及び各系列内の科目群の系統性に配慮し，順次性のある体系的な教育課程を編成する。
　学修の基礎となる「全学共通基幹科目」については，「アカデミックスキルズプログラム」，「英語基幹プログラム」を１年次に配当し，「ＩＣＴプログラム」を１年次・２年次に配当する。同様に，「複言語プログラム」を１年次から３年次まで，「世界教養プログラム」を１年次から４年次までに配当する。
　「専修科目」については，「専攻言語プログラム」，「専門科目群」を１年次から４年次までに配当するとともに，専門教育の総仕上げとして「専門ゼミナール」を３年次・４年次に，いずれも専門性・学修難易度を考慮して編成する。なお，卒業論文は４年次で履修（選択）する。また，「自由選択科目」に，１年次から４年次までに「海外研修」（選択）を設置する。

３．多様な授業方法の採用や体験的な学修活動などの充実により教育方法の質的転換を図る。
　人材養成の目的に則して，講義形式の授業とともに，学生の主体的な学びを引き出すために少人数授業，習熟度別授業，双方向的・学生参加型授業，課題解決・探求型授業，ＩＣＴを活用した授業などのアクティブ・ラーニングを工夫するとともに，海外研修，海外留学，インターンシップ，実習などの体験的な学修活動の充実を図るなど，教育方法の質的転換を図る。また，外国人教師による授業の比率を高め，外国語学修環境の整備を図る。

４．シラバスの充実，充分な学修時間の確保などにより単位制度の実質化を図る。
　単位制度の実質化を図るために，シラバスに各科目の到達目標，学修内容，準備学修の内容・時間，成績評価の方法・基準などを明示するとともに充分な学修時間を確保し，登録単位数の上限設定や授業時間外での学修指導の実施，海外留学・海外研修，インターンシップなどの単位認定を行い，学修の充実を図る。

５．明確な成績評価基準に従い，教育の質保証に向けた厳正で公平な成績評価の実施に努める。
　明確化された到達目標と成績評価基準に従い，厳正で公平な成績評価の実施を図るとともに，ＧＰＡなどの学修評価システムにより学修成果を組織的に評価する制度を活かして，教育の質保証に向けた成績評価の取り組みを行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.nufs.ac.jp/faculties/foreign/fs-policy/#775e9cbc）
（概要） ・本学では，グローバル人材の養成に向けて，世界を舞台に活躍できる豊かな個性と人間味に溢れ，国際感覚を身につけた人材を育てることを目標にしています。そのため，４年間を通した教育課程の中で，真の国際人に必要な豊かな教養，高い専門性，高度な外国語運用能力とともに，多言語・多文化に関わる深い理解及び人間的共感力・国際感覚を身につけるように教育を行います。 　外国語学部では，幅広く豊かな教養を礎に，英語圏，フランス語圏，中国語圏を中心とする地域の言語・文化・社会についての高い専門的知識と高度な外国語運用能力を身につけ，広く多言語・多文化社会への豊かな共感能力と国際感覚に優れた国際的教養人を育成します。 ・その教育を受けるためには，国際人になるための意欲・関心，外国語を学ぶ強い意志が必要ですが，学修の基礎となる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」などの基礎的な能力・資質も必要です。外国語学部では，英米語学科で英語を主専攻として学び，フランス語学科・中国語学科では英語を副専攻語として学びますが，英語を主専攻とする学科はもとより，副専攻語とする学科でも，英語力は学びの最も重要な基礎力です。そのため，「英語」はいずれの学科の入学試験においても必修科目としています。また，外国語を学修する上でその基礎となる国語力は欠かせないもので，さらに，外国語の修得を深化させていくためには，幅広い分野についての基礎学力も大変重要です。従って，外国語学部のいずれの学科においても，専攻する言語は異なる場合があっても，共通の入学試験を採用しており，「英語」の能力が高い者を選抜することを重視しつつ，「国語」などの他教科の基礎学力についても充分配慮して，入学者選抜を実施します。

学部等名　現代国際学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.nufs.ac.jp/faculties/international）
（概要） 英語が話せるだけでなく，高度な英語運用能力に加え，世界情勢や各国の関係性，文化や商習慣などの知識を幅広く持ち，考える力や課題を発見し，問題を解決する力を習得したグローバル人材が求められる社会背景を踏まえ，「世界共通語としての英語」を基盤に，職業分野に直結する能力を持った人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.nufs.ac.jp/faculties/international/ci-policy）
（概要） 幅広く豊かな教養を礎に，キャリアに関わる高い専門性，また高度な英語運用能力を身につけ，現代社会に関わる鋭利な問題意識，豊かな共感能力と国際感覚をもった国際的職業人の育成を目的として，その実現のために各学科に編成された教育課程において学修し，所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者に，専攻分野の名称を付記した学士の学位を授与する。 　グローバルビジネス学科　学士（国際経営） 　現代英語学科　学士（国際学） 　国際教養学科　学士（国際学） 学修成果 ■豊かな教養 所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者は，国際的職業人としてふさわし

い汎用的能力（情報処理力，批判的思考力・表現力・判断力），外国語運用能力（英語及び英語以外の複言語のコミュニケーション能力），世界教養（世界の言語・文化・政治・経済・自然などに関する教養）を身につけている。
■高い専門性
専攻分野で，各種キャリアに係る高度な知識とスキルを身につけている。
■高度な英語運用能力
専攻分野で，各種キャリアに係る高度な英語運用能力を身につけている。
■豊かな共感能力・国際感覚
英語を各種キャリアで適切に使用する知識・能力とキャリアスキルを統合し，国際社会で活躍できる共感能力・国際感覚を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ
https://www.nufs.ac.jp/faculties/international/ci-policy）

（概要）
１．学位授与方針，人材養成の目的と整合性のとれた教育課程の編成を行う。
　豊かな教養，キャリアに関わる高い専門性，高度な英語運用能力とともに豊かな共感能力と国際感覚を涵養するため，教育課程に「全学共通基幹科目」，「専修科目」，「自由選択科目」，「全学開放科目」を設置する。
　豊かな教養については，「全学共通基幹科目」の「アカデミックスキルズプログラム」と「ＩＣＴプログラム」で国際的職業人にふさわしい汎用的能力を育成し，「英語基幹プログラム」，「複言語プログラム」で英語及び英語以外の複言語のコミュニケーション能力を育成するとともに，「世界教養プログラム」で世界の言語・文化・政治・経済・自然などに関する教養を修得させる。高い専門性については，「専修科目」で指導し，「エリアスタディーズ」で世界の地域の文化・社会について知識を深め，各学科の専門科目と「セミナープログラム」でキャリアスキルと専門性を統合的に育成する。高度な英語運用能力は専修科目の「Basic English」，「Applied English」などで指導する。また，学生の学力及び学修目標の多様化に対応するために「自由選択科目」を編成し，「全学開放科目」も履修できるようにする。これらの科目の履修と国際交流を通して，グローバル時代の社会人として必要な幅広く豊かな教養と高度な英語運用力と高い専門性をキャリアスキルとともに身につけ，共感能力と国際感覚が豊かな人材を育成する。

２．学位授与方針に則して順次性のある体系的な教育課程を編成する。
　人材養成の目的と学修成果の達成に向けて，初年次から卒業年次に至るまで，「全学共通基幹科目」，「専修科目」，「自由選択科目」，及び各系列内の科目群の系統性に配慮し，順次性のある体系的な教育課程を編成する。
　学修の基礎となる「全学共通基幹科目」については，「アカデミックスキルズプログラム」，「ＩＣＴプログラム」，「英語基幹プログラム」を１年次に編成し，「複言語プログラム」を１年次から３年次までに編成する。また，「世界教養プログラム」は「導入」を１年次に配置し，「応用」を２年次から４年次までに配置する。「専修科目」については，「エリアスタディーズ」，「セミナープログラム」，「Basic English」を１年次から４年次まで（「セミナープログラム」はグローバルビジネス学科・国際教養学科は２年次から４年次まで）に配置し，「Applied English」を２年次に開設する。学科独自の専門科目は科目の特性を考慮して段階的に配置する。さらに，「自由選択科目」では「キャリアデザイン科目」，「海外研修」（選択）などを１年次から４年次までに編成する。

３．多様な授業方法の採用や体験的な学修活動などの充実により教育方法の質的転換を図る。

人材養成の目的に則して，講義形式の授業とともに，学生の主体的な学びを引き出すために少人数授業，習熟度別授業，双方向的・学生参加型授業，課題解決・探求型授業，ＩＣＴを活用した授業などのアクティブ・ラーニングを工夫するとともに，海外研修，海外留学，インターンシップ，実習などの体験的な学修活動の充実を図るなど，教育方法の質的転換を図る。また，外国人教師による授業の比率を高め，外国語学修環境の整備を図る。さらに，キャリア教育を一層重視するために，実務家教員による授業・実習を積極的に進める（たとえば，「現代国際学特殊講義」，「企業提携プログラム」，「エアライン・ホスピタリティ科目」など）。

４．シラバスの充実，充分な学修時間の確保などにより単位制度の実質化を図る。
単位制度の実質化を図るために，シラバスに各科目の到達目標，学修内容，準備学修の内容・時間，成績評価の方法・基準などを明示するとともに充分な学修時間を確保し，登録単位数の上限設定や授業時間外での学修指導の実施，海外留学・海外研修，インターンシップなどの単位認定を行い，学修の充実を図る。

５．明確な成績評価基準に従い，教育の質保証に向けた厳正で公平な成績評価の実施に努める。
明確化された到達目標と成績評価基準に従い，厳正で公平な成績評価の実施を図るとともに，ＧＰＡなどの学修評価システムにより学修成果を組織的に評価する制度を活かして，教育の質保証に向けた成績評価の取り組みを行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ
https://www.nufs.ac.jp/faculties/international/ci-policy）

（概要）
・本学では，グローバル人材の養成に向けて，世界を舞台に活躍できる豊かな個性と人間味に溢れ，国際感覚を身につけた人材を育てることを目標にしています。そのため，４年間を通した教育課程の中で，真の国際人に必要な豊かな教養，高い専門性，高度な外国語運用能力とともに，多言語・多文化に関わる深い理解及び人間的共感力・国際感覚を身につけるように教育を行います。
　現代国際学部では，幅広く豊かな教養を礎に，キャリアに関わる高い専門的知識，高度な英語運用能力を身につけ，現代社会に関する先鋭な問題意識と豊かな共感能力，そして鋭利な国際感覚をもった国際的職業人を育成します。
・その教育を受けるためには，国際人になるための意欲・関心，そしてその基盤となる外国語を学ぶ意志が必要ですが，学修の基礎となる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」などの基礎的な能力・資質も必要です。現代国際学部では，グローバルビジネス学科・現代英語学科・国際教養学科のいずれの学科でも，英語を主専攻として学び，英語力は学びの最も重要な基礎力です。そのため，「英語」はいずれの学科の入学試験においても必修科目としています。また，外国語を学修する上でその基礎となる国語力は欠かせないもので，さらに，外国語の修得を深化させていくためには，幅広い分野についての基礎学力も大変重要です。従って，現代国際学部のいずれの学科においても，共通の入学試験を採用しており，「英語」の能力が高い者を選抜することを重視しつつ，「国語」などの他教科の基礎学力についても充分配慮して，入学者選抜を実施します。

学部等名　世界共生学部

教育研究上の目的（https://www.nufs.ac.jp/faculties/collabo）

（概要）
グローバル化時代・多文化共生時代において，その現状を正しくとらえ，世界の人たちと共に生きるために，複数の言語と地域を選んで学び，共生に関する学問的知識

を多角的に習得し，さらに多くのグローバルな体験を通して，世界各地の人びとと絆を結び，多文化共生時代における国内外の問題解決のために行動できるアクティブでグローバルな人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ
https://www.nufs.ac.jp/faculties/collabo/policy）

（概要）
　幅広く豊かな教養を礎に，高い専門性，高度な英語運用能力を身につけ，基本的な倫理観，健全な競争心，豊かな共感能力を備え，多文化共生時代に国内外で対処を迫られる課題に対して高い見識と多角的な視野から対応できる人材の育成を目的として，その実現のために各学科に編成された教育課程において学修し，所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者に，専攻分野の名称を付記した学士の学位を授与する。
　世界共生学科　学士（世界共生）

学修成果
■豊かな教養
所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者は，世界規模の課題解決に向け他者と協調して行動できる人材にふさわしいコミュニケーション能力，情報活用能力，そして批判的思考力・表現力・判断力等からなる豊かな教養を身につけている。
■高い専門性
複数のリージョン（地域生活圏）の社会・文化についての学びを通じ，日本及び世界の諸現象を総合的かつリアルに理解し，多様な地域・文化の人々との平和的共生を実現し，かつビジネス等の面においては対等に競いながら，グローバルに活躍するのに充分な知識・技能を備えている。
■高度な英語運用能力
「聞く・話す・読む・書く」の４スキルに加え，国際問題を討論する高度な外国語コミュニケーション能力を身につけている。
■基本的な倫理観・健全な競争心・充分な共感能力・国際感覚
協調精神（cooperation）や社会貢献の意識（contribution）を強くもった多文化共生社会の担い手となるに充分な共感能力・国際感覚を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ
https://www.nufs.ac.jp/faculties/collabo/policy）

（概要）
１．学位授与方針，人材養成の目的と整合性のとれた教育課程の編成を行う。
（１）外国語大学にふさわしい充実した外国語教育プログラムを提供する。そのために，全学共通の「英語基幹プログラム」と「複言語プログラム」に加え，学部独自の「専攻言語プログラム」で高度な言語発信力の修得を図る。
（２）初年次教育を重視し，大学の学修に必要となるスキルを身につけさせる。そのために，「アカデミックスキルズプログラム」や「世界教養プログラム（導入）」を置く。
（３）世界に通じる教養教育（world liberal arts）を重視する。そのために，「世界教養プログラム（応用）」のほか，国内外でのボランティア活動やインターンシップなどにおいて自己と他者との関わりについて考えさせる。
（４）世界をリージョン（地域生活圏）単位で研究教育するための「リージョナルスタディーズ」では３地域を選択させ，複眼的思考を養成する。
（５）「専門ゼミナール」はリージョンごとに設置し，地域研究を徹底する。
（６）専門知識科目を「国際ガバナンスコース」と「グローバル共生コース」の２コースに分けて提供し，選択学修を求める。
（７）インターネットやマスメディア等の共生社会における活用技術を修得させる。

そのために，全学共通の「ＩＣＴプログラム」に加え，学部独自の「グローバルメディア科目」を置く。
（８）地域創生を念頭に国内各地の多文化状況を現場にて学修する科目群を置く。そのために，現場実習等を含む「地域創生科目」を置く。

２．学位授与方針に則して順次性のある体系的な教育課程を編成する。
人材養成の目的と学修成果の達成に向けて，初年次から卒業年次に至るまで，「全学共通基幹科目」，「専修科目」，「自由選択科目」，及び各系列内の科目群の系統性に配慮し，順次性のある体系的な教育課程を編成する。
外国語教育プログラムは，１年次に「英語基幹プログラム科目」すべてと「専攻言語プログラム科目」の一部を学習する。２年次からは「専攻言語プログラム科目」において，必要な難易度の高い読解力と表現力の訓練を行う。また，「複言語プログラム」では，11 の外国語のすべてにおいて初級・中級・上級の段階的履修が可能になっている。
世界共生学部ではリージョンの研究を重要視しているが，１年次にはまず「アカデミックスキルズプログラム」において地域研究のための基礎的なスキルの修得を図り，その上で２年次に「リージョナルスタディーズ」を受講する。そして，３・４年次にはリージョンを選んで所属する「専門ゼミナール」において高度な研究を行う。
世界共生学部のコース科目については，１年次に２つのコースそれぞれの「概論」を必修として履修し，２年次には必要性の高い科目を両コースそれぞれに２科目ずつ置いて選択学習する。専門学習を積極的に行うべき３・４年次には，学生が自ら選択したコースから 10 単位以上を履修する。

３．多様な授業方法の採用や体験的な学修活動などの充実により教育方法の質的転換を図る。
人材養成の目的に則して，講義形式の授業とともに，学生の主体的な学びを引き出すために少人数授業，習熟度別授業，双方向的・学生参加型授業，課題解決・探求型授業，ＩＣＴを活用した授業などのアクティブ・ラーニングを工夫するとともに，海外研修，海外留学，インターンシップ，実習などの体験的な学修活動の充実を図るなど，教育方法の質的転換を図る。また，外国人教師による授業の比率を高め，外国語学修環境の整備を図る。

４．シラバスの充実，充分な学修時間の確保などにより単位制度の実質化を図る。
単位制度の実質化を図るために，シラバスに各科目の到達目標，学修内容，準備学修の内容・時間，成績評価の方法・基準などを明示するとともに充分な学修時間を確保し，登録単位数の上限設定や授業時間外での学修指導の実施，海外留学・海外研修，インターンシップなどの単位認定を行い，学修の充実を図る。

５．明確な成績評価基準に従い，教育の質保証に向けた厳正で公平な成績評価の実施に努める。
明確化された到達目標と成績評価基準に従い，厳正で公平な成績評価の実施を図るとともに，ＧＰＡなどの学修評価システムにより学修成果を組織的に評価する制度を活かして，教育の質保証に向けた成績評価の取り組みを行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ
https://www.nufs.ac.jp/faculties/collabo/policy）

（概要）
・本学では，グローバル人材の養成に向けて，世界を舞台に活躍できる豊かな個性と人間味に溢れ，国際感覚を身につけた人材を育てることを目標にしています。そのため，４年間を通した教育課程の中で，真の国際人に必要な豊かな教養，高い専門

性，高度な外国語運用能力とともに，多言語・多文化に関わる深い理解及び人間的共感力・国際感覚を身につけるように教育を行います。
　世界共生学部では，幅広く豊かな教養を礎に，高い言語運用能力を基礎としつつ，多文化共生時代に国内外で対処が必要な課題に対し高い見識と多角的な視野から対応できる豊かな人間性を備えたグローバル人材を育成します。
・その教育を受けるためには，国際人になるための意欲・関心，外国語を学ぶ意志が必要ですが，学修の基礎となる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」などの基礎的な能力・資質も必要です。世界共生学部世界共生学科では，英語を主専攻として学び，英語力は学びの最も重要な基礎力です。そのため，「英語」は入学試験において必修科目としています。また，外国語を学修する上でその基礎となる国語力は欠かせないもので，さらに，外国語の修得を深化させていくためには，幅広い分野についての基礎学力も大変重要です。従って，世界共生学部では「英語」の能力が高い者を選抜することを重視しつつ，「国語」などの他教科の基礎学力についても充分配慮して，入学者選抜を実施します。

学部等名　世界教養学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.nufs.ac.jp/faculties/liberal-arts）
（概要） 　新世代のグローバル人材の育成を理念に掲げ，外国語（「英語」や複数の言語）と日本語の双方に高い運用能力を身につける学びを根底としながら，グローカルな教養と専門的知識を備える学びを展開し，世界教養学科は軸足を“世界”に，国際日本学科は軸足を“日本”に置きながら，世界と日本を双方向に学び，世界の知見を日本に還元，日本の魅力を世界に発信できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.nufs.ac.jp/faculties/liberal-arts/la-policy）
（概要） 　幅広く豊かな教養を礎に，日本及び世界の諸地域の言語・文化・社会に関する高い専門性と高度な言語運用能力を身につけ，日本が抱える社会課題や世界規模の課題に対応できる豊かな共感能力と鋭利な国際感覚に裏打ちされたグローバル教養人の育成を目的とし，その実現のために各学科に編成された教育課程において学修し，所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者に対し，専攻分野の名称を付記した学士の学位を授与する。 　世界教養学科　学士（世界教養） 　国際日本学科　学士（日本語） 学修成果 ■豊かな教養 所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者は，日本及び世界諸地域の課題に対応できる汎用的能力（情報処理力，批判的思考力・表現力・判断力），言語運用能力（英語と日本語及び英語以外の複言語のコミュニケーション能力），世界教養（世界の言語・文化・政治・経済・自然などに関する教養）を身につけている。 ■高い専門性 世界と日本の言語・文化・歴史・社会について高度な専門知識を身につけている。 ■高度な言語運用能力 グローバル教養人に不可欠な外国語と日本語による高度なコミュニケーション能力を身につけている。 ■豊かな共感能力・国際感覚 グローバル社会の中で，世界と日本を双方向的に捉え，日本語・外国語を適切に使用

する知識・能力を有し，個々の状況に対する批判的な思考力と同時に，異なる文化や価値観に対する共感能力を備え，グローバル＋ローカルな視野で意思伝達ができる国際感覚を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.nufs.ac.jp/faculties/liberal-arts/la-policy）

（概要）

１．学位授与方針，人材養成の目的と整合性のとれた教育課程の編成を行う。

（１）外国語大学にふさわしい充実した外国語教育プログラムを提供する。そのために，全学共通の「英語基幹プログラム」と「複言語プログラム」（世界教養学科においては，英語以外の 10 の言語から任意の１言語，国際日本学科においては，英語）に加え，学部独自の「専攻言語プログラム」で高度な言語発信力の修得を図ります。「複言語プログラム」では，11 の外国語すべてにおいて初級・中級・上級の段階的履修を可能にする。

（２）大学での学習に必要な知識と，「超スマート社会」を生き抜くための基本スキルを育成するため，「アカデミックスキルズプログラム」，「ＩＣＴプログラム」，「世界教養プログラム（導入）」を置く。

（３）世界教養学部の人材養成像に照らし，とくにキャリア志向の強い学生に対しては，「アカデミックスキルズプログラム」の一環としてキャリアスキルズの涵養を目的とした「Creative Presentation」科目を開設し，世界教養ジョイントプログラムの基盤科目として位置付ける。

（４）世界教養学部では，世界に通用する教養（world liberal arts）の育成を重視する。そのために，「世界教養プログラム（応用）」のほか，学科を超え，日本及び世界諸地域の関係性に関わる基礎的な教養を学ばせる世界教養ブリッジ科目を開設する。

（５）世界教養学科における専門教育は，「ワールドスタディーズコース」（人文系）と「グローバルスタディーズコース」（社会系）の２コースにおいて行い，スキル系，学際系の授業科目についてはこれらを共通科目と位置付けて提供する。また，キャリア意識の向上とキャリアスキルの具体的養成のために「世界人材育成プログラム」を開設する。

（６）国際日本学科における専門教育は，「国際日本文化コース」（文化研究系）と「国際日本発信コース」（国際発信系）の２コースにて行い，キャリア意識の向上とキャリアスキルの具体的養成のために「日本語教育プログラム」を開設する。

（７）専門教育の総仕上げとして，専門ゼミナールを開設する。世界教養学科においては，世界諸地域の言語・文化に関するゼミナール（ワールドスタディーズ系）とグローバル社会における人間・環境に関するゼミナール（グローバルスタデイーズ系）の２つの系，国際日本学科においては，「国際日本文化コース」（文化研究系）と「国際日本発信コース」（国際発信系）のゼミナールを用意する。

（８）世界教養学科及び国際日本学科の枠を超え，世界教養学部における人材育成の理念に照らし，２つのプログラムから構成される「世界教養ジョイントプログラム」（「報道スペシャリストプログラム」，「国際協力コーディネータープログラム」）を開設する。

２．学位授与方針に則して順次性のある体系的な教育課程を編成する。

人材養成の目的と学修成果の達成に向けて，初年次から卒業年次に至るまで，「全学共通基幹科目」，「専修科目」，「自由選択科目」及び各系列内の科目群の系統性に配慮し，順次性のある体系的な教育課程を編成する。

外国語教育プログラムは，１年次に「英語基幹プログラム科目」すべてと「専攻言語プログラム科目」の一部を学習する。２年次からは「専攻言語プログラム科目」において必要な難易度の高い読解力と表現力の訓練を行う。また，「複言語プログラム」で

は，11 の外国語のすべてにおいて初級・中級・上級の段階的履修が可能になっている。世界教養学科では，英語以外の 10 の外国語，国際日本学科では，英語がその対象となる。

世界教養学部では高度教養人の育成を最大の目的としているが，１年次にはまず「アカデミックスキルズプログラム」において大学における学びの意味と学びのための基礎的スキル，「世界教養プログラム（導入）」及び「世界教養ブリッジ科目」において日本と世界をめぐる教養を修得し，その上で２年次以降における専門科目，すなわちそれぞれ２つのコース科目に繋げる。３・４年次には，それぞれ２つの系列に属する「専門ゼミナール」において高度な研究を行う。それと同時に，「世界教養人材プログラム」，「日本語教育プログラム」によってキャリア意識の向上を目指す。

世界教養学部のコース科目については，１年次の「世界教養ブリッジ科目」の修得を通してコース選択の意欲を高め，２年次以降，それぞれのコースに分かれて学習する。専門学習を積極的に行うべき３・４年次には，学生が自ら選択したコースから 10 単位以上を履修する。

３． 多様な授業方法の採用や体験的な学修活動などの充実により教育方法の質的転換を図る。

人材養成の目的に則して，講義形式の授業とともに，学生の主体的な学びを引き出すために少人数授業，習熟度別授業，双方向的・学生参加型授業，課題解決・探求型授業，ＩＣＴを活用した授業などのアクティブ・ラーニングを工夫するとともに，海外研修，海外留学，インターンシップ（国内外），実習などの体験的な学修活動の充実を図るなど，教育方法の質的転換を図る。また，外国人教員による授業の比率を高め，外国語学修環境を整備する。

４．シラバスの充実，充分な学修時間の確保などにより単位制度の実質化を図る。

単位制度の実質化を図るために，シラバスに各科目の到達目標，学修内容，準備学修の内容・時間，成績評価の方法・基準などを明示するとともに，充分な学修時間を確保し，登録単位数の上限設定や授業時間外での学修指導の実施，海外留学・海外研修，インターンシップなどの単位認定を行い，学修の充実を図る。

５． 明確な成績評価基準に従い，教育の質保証に向けた厳正で公平な成績評価の実施に努める。

明確化された到達目標と成績評価基準に従い，厳正で公平な成績評価の実施を図るとともに，ＧＰＡなどの学修評価システムにより学修成果を組織的に評価する制度を活かして，教育の質保証に向けた成績評価の取り組みを行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ
https://www.nufs.ac.jp/faculties/liberal-arts/la-policy）

（概要）

・本学では，グローバル人材の養成に向けて，世界を舞台に活躍できる豊かな個性と人間味に溢れ，国際感覚を身につけた人材を育てることを目標にしています。そのため，４年間を通した教育課程の中で，真の国際人に必要な豊かな教養，高い専門性，高度な外国語運用能力とともに，多言語・多文化に関わる深い理解及び人間的共感力・国際感覚を身につけるように教育を行います。

　世界教養学部では，世界と日本の双方に関わる豊かな教養を礎に，世界と日本の言語・文化・歴史・社会に関する高い専門性と高度な言語運用能力を身につけ，鋭利な批判的能力と豊かな共感能力，さらには高いコミュニケーション能力の裏付けをもつ国際感覚を備えたグローバル教養人を育成します。

・その教育を受けるためには，国際人になるための意欲・関心，外国語を学ぶ意志が必要ですが，学修の基礎となる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」などの基

礎的な能力・資質も必要です。世界教養学部では，世界教養学科で英語を主専攻として，国際日本学科で英語を副専攻語として学びますが，英語を主専攻とする学科はもとより，副専攻語とする学科でも，英語力は学びの最も重要な基礎力です。
そのため，「英語」はいずれの学科の入学試験においても必修科目としています。
他方，日本語を主専攻語とする国際日本学科はもとより，世界教養学科においても外国語学修の基礎となる国語力は欠かせません。さらに，これらの学修を深化させていくためには，幅広い分野についての基礎学力が大変重要です。従って，世界教養学部を構成する両学科とも，専攻する言語は異なる場合があっても，共通の入学試験を採用しており，「英語」の能力が高い者を選抜することを重視しつつ，「国語」などの他教科の基礎学力についても充分配慮して，入学者選抜を実施します。

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	5 人	－					5 人
外国語学部	－	22 人	14 人	28 人	1 人	11 人	76 人
現代国際学部	－	16 人	15 人	5 人	0 人	5 人	41 人
世界共生学部		7 人	3 人	4 人	0 人	2 人	16 人
世界教養学部		9 人	7 人	4 人	0 人	3 人	23 人
その他		4 人	3 人	0 人	0 人	0 人	7 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
人	306 人	306 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：大学ホームページ https://www.nufs.ac.jp/teachers/faculty/index

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
外国語学部	540 人	479 人	88.7%	2,160 人	2,061 人	95.4%	－ 人	0 人
現代国際学部	299 人	258 人	86.3%	1,196 人	1,257 人	105.1%	－ 人	0 人
世界共生学部	100 人	97 人	97.0%	400 人	390 人	97.5%	－ 人	0 人
世界教養学部	160 人	129 人	80.6%	640 人	634 人	99.1%	－ 人	1 人
合計	1,099 人	963 人	87.6%	4,396 人	4,342 人	98.8%	－ 人	1 人

（備考）

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
外国語学部	539 人 (100%)	6 人 (1.1%)	470 人 (87.2%)	63 人 (10.7%)
現代国際学部	280 人 (100%)	3 人 (1.1%)	246 人 (87.9%)	31 人 (11.1%)
世界共生学部	90 人 (100%)	3 人 (3.3%)	72 人 (80%)	15 人 (16.7%)

世界教養学部	107 人 (100%)	5 人 (4.7%)	94 人 (87.9%)	8 人 (7.5%)
合計	1016 人 (100%)	17 人 (1.7%)	882 人 (86.8%)	117 人 (11.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数(任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
学生が授業選択の際や授業の進度を確認する際に参照するため，授業担当教員に開講前年度の１月下旬を期限としてシラバスの作成，ポータルシステムへの登録を求めている。教員には作成要領を規定した『シラバス（講義要項）の作成について』を配付し，記載の必要な事項として，①授業概要（主要テーマ），学習目標並びに準備学習の内容，②目標達成のための授業方法，③授業計画，④成績評価基準，⑤使用教科書（参考書）を示している。その後，各学科において，教務委員を中心としてシラバスの内容を点検し，不備や課題を修正したうえで，３月下旬にＷｅｂ公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき，順次性のある体系的な教育課程の下，多様な授業方法を採用したり，体験的な学修活動を充実させるなど教育方法を工夫し，単位の実質化が図られた授業を展開している。これらの授業の受講により修得された成果を適切に評価するため，明確化された到達目標と成績評価基準に従い，厳正で公平な成績評価の実施に努めている。これに基づき，シラバスにおいて成績評価基準を掲載し，あらかじめ周知している。
大学全体及び各学部における卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は学長室会議において策定し，大学評議会及び各学部の教授会の議を経て決定している。この方針は，全学生に毎年度配付する履修要項に掲載するほか，大学公式ＨＰにも公表している。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
外国語学部	英米語学科	124 単位	有・無	単位
	フランス語学科	124 単位	有・無	単位
	中国語学科	124 単位	有・無	単位
現代国際学部	グローバルビジネス学科	124 単位	有・無	単位
	現代英語学科	124 単位	有・無	単位
	国際教養学科	124 単位	有・無	単位
世界共生学部	世界共生学科	124 単位	有・無	単位
世界教養学部	世界教養学科	124 単位	有・無	単位
	国際日本学科	124 単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページ https://www.nufs.ac.jp/facility

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部	―	765,000 円	200,000 円	430,000 円	1,2 年次
	―	775,000 円	― 円	430,000 円	3,4 年次

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 入学時にフレッシュマンキャンプを行い，大学での学修方法の理解に努めるとともに，教員や学生間の親睦を図っている。 クラスアドバイザー（世界教養学科はアカデミックアドバイザー）制度を置き，学修に関する質問，相談をはじめ，学生生活，留学，進路等の相談に応じるほか，オフィスアワー制度を設け，学生が自由に教員を訪ね，学修について相談できるよう一定の時間帯に研究室を開放している。 経済面では，成績優秀学生奨学金制度（学部長表彰），成績優秀者育英奨学金制度，緊急経済支援奨学金，激甚災害被災学生に係る学費等免除及び見舞金支給制度を設けている。
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要）就職ガイダンス、各種対策講座、学内企業説明会、個別相談など。有料の講座の場合、大学が金銭的支援をする場合がほとんどである。また、100km を超える遠隔地での採用選考の場合、申請により金銭的支援が受けられる。
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 保健管理センターでは，健康・衛生管理に資するほか，学生相談室では専門カウンセラーを配し，心の悩みや相談に応じている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.nufs.ac.jp/outline/disclosure/info

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F123310106693
学校名	名古屋外国語大学
設置者名	学校法人中西学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		352人	328人	376人
内訳	第Ⅰ区分	208人	209人	
	第Ⅱ区分	94人	76人	
	第Ⅲ区分	50人	43人	
家計急変による支援対象者（年間）				11人
合計（年間）				
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	―		
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	―		
「警告」の区分に連続して該当	23人		
計	27人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	―	前半期		後半期	

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	4人
３月以上の停学	0人
年間計	4人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	0人		
ＧＰＡ等が下位４分の１	55人		
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	55人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。